

赤い羽根共同募金(街頭募金)

藤井寺市社会福祉施設連絡会として毎年恒例で参加している藤井寺駅前での赤い羽根共同募金(街頭募金)活動。恒例の活動はいつも天候に悩まされてきましたが、今年は初めて雨の降らない中で活動を行うことが出来ました。また施設連絡会の定例会に参加していた元実習生の協力もあり、計24名で約1時間、駅の南側・北側に分かれて活動を行いました。



活動に際し、奥田会長から参加施設へあいさつ

今年は、コロナ感染症予防を意識して、活動前の参加者に検温と手指消毒を実施し、マスク又はフェイスシールドの着用を徹底するなど対策を講じて行いました。その他にも、大きな声を極力控えて、CDでの呼びかけを行ったり、首かけの募金箱をとりやめて縦長のカゴの先に募金箱を

つけて、ティッシュの受け渡し時にも距離をとるなどの対応をしました。

三密回避やクラスター発生に配慮した新しい募金の形の導入や経済的打撃の影響から、募金される方が減るのではという予想はいい意味で裏切られ、昨年度とほぼ同様の募金の協力を頂くことが出来ました。

ご協力いただいた会員施設の皆さま、有難うございました。



感染予防を徹底した募金活動の様子

【募金額…22,146円】

令和2年度定例会の日程

- 令和2年11月19日(木) 午後2時～ @福祉会館
 - 令和3年2月25日(木) 午後2時～ @福祉会館
- *ご案内は、後日送付します。

今年度初の定例会の実施

コロナ禍の中、上半期の各施設は感染拡大防止の対応に追われ、総会も開けない状況が続きました。感染者が一定落ち着いてきた状況の中、奥田会長と事務局との話し合いの結果、コロナ感染について細心の注意を払った上で、役員会を8月27日(木)、定例会を9月17日(木)に実施しました。(今回の通信では、定例会の様子を報告します。)



定例会の様子

◇コロナ特例の貸付の現状

社協の大東職員から、3月末から始まったコロナに関する特例緊急小口貸付申込件数が、定例会が実施された9月17日時点で、申請件数が、530件を超え、市人口の1%の数に到達しつつあることが報告されました。

その報告を受け、各種給付金や貸付金が底をつき、倒産・廃業が

増加すると予想される中で、今後の社会貢献事業を益々必要とされる社会となると奥田会長が総括を行いました。また会員施設からは、失業者への対策として、ハローワークと市の連携がより必要になるのではとの意見が出ました。

◇社会資源マップについて

今年度末に完成予定の施設連絡会による「社会資源マップ」についての進捗状況を、大東職員から報告。その中で、総合相談の窓口として、会員施設の所在地と連絡先を載せることについて検討が行われ、全会一致で同意を得ることができました。

今後、地図作成社であるゼンリン(株)と調整を行い、市内に住む支援を必要とするあらゆる世帯に対して、日ごろより支援を行っている地区や民生委員児童委員、福祉委員の方がスムーズかつ迅速に適宜情報提供できるような1つのツールとして、使いやすいマップを目指して今後も作成を進めていきたいと考えています。

その他、昨年度コロナの影響で延期となった子ども食堂についての研修会の実施方法や、災害についての市役所危機管理課との連携の方向性については、次回の定例会で話し合いをし、結論を出すこととなりました。



